

一般質問



問 コミュニティスクールは 内容充実を先に まずは次年度に 施行の予定

中身は、
一、進捗状況は。又こ
ども園を含めるのか。
二、学校運営協議会の
ティスクール指定につ
いて

一、9月に各小中学校
の校長、教頭、PTA
会長、学校評議員等を
対象にした説明会の実
施を予定している。
年度内に教育委員会議
で設置規則を制定し平
成31年度に施行予定。
こども園は今は考えて
いない。

二、町内で一つの学校
運営協議会の設置に向
け、各小中学校長と協
議をしている。

各学校ごとの部会の
設置、学校の支援地域
本部の設置、コーディ
ネーターについて現在
各校長と協議をしてい
る。

三、学校に対する保護
者、地域の理解の深ま
り、保護者、地域によ
る学校支援活動の活発
化、それによって長期
的には町が元気になつ
ていくということ。

今でも町民は非常に
学校の行事について協
力的である。更に学校
の負担も軽くしながら、
より子どもたちが将来
に向かって伸びやかに
健やかに育つように応
援をしていくことが期
待される。

四、設置はそれぞれの
判断であり、義務付け
られていない。協議中
なのでまだ話せること
はない。

学校運営協議会と学
校支援地域本部が両輪
となることで制度がよ
りよいものになり、機
能するのではないか。
急がずにシステムを
しっかりと作ることが必
要だと考えるが。

△高橋議員▽
町としてどのような
関わりを想定して進め
ているのか。

△高橋議員▽
濁川小のように地域
参観日を設けたり、児
童の発表をしたりする
と地域と学校の距離が
近くなり、児童も地域
に愛着を持つ。

三、狙う効果は何か。
四、学校支援地域本部
やコーディネーターに
ついての考えは。

より学校の教育内容、
教育の姿を地域に開か
れたものにしていくと
いうことが根底にある
と思う。

△高橋議員▽
学校をより地域に開
くのではなく、地域が
より学校に関わってい
くのがこの制度ではな
いか。

△高橋議員▽
議員の指摘等も踏ま
えながら、今後より詰
めていきたい

一般質問

28年3月に、町長は子どもの町政参加について「今後機会をとらえて子ども達からの提案を町政に反映させる事を考えたい。」
更に当時行つた未来予想図の住民セミナーを念頭に、「そういう場に小中学生まで対象を広げて出席してもらつて意見を述べてもらう」と答弁した。

うことが現実的である」「子どもたちの意見が町政に反映されるよう機会作りに努める」と答弁した。
一・その後1年半の間、子どもたちの声をどのように聞いてどう対処してきたのか。

総合計画の住民セミナーにも、10年後は地域を支える子どもの姿はなかつた。なぜ声を聞かないのか。

二・教育課程とは別に町として子どもたちを段階的にどう育てるかの計画作成を、他自治体に先駆けて取り組むことが必要だと思うが。

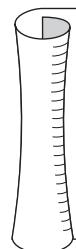
高橋議員
△
28年3月に、町長は子どもの町政参加について「今後機会をとらえて子ども達からの提案を町政に反映させる事を考えたい。」
更に当時行つた未来予想図の住民セミナーを念頭に、「そういう場に小中学生まで対象を広げて出席してもらつて意見を述べてもらう」と答弁した。

うことが現実的である」「子どもたちの意見が町政に反映されるよう機会作りに努める」と答弁した。
一・その後1年半の間、子どもたちの声をどのように聞いてどう対処してきたのか。

総合計画の住民セミナーにも、10年後は地域を支える子どもの姿はなかつた。なぜ声を聞かないのか。

二・教育課程とは別に町として子どもたちを段階的にどう育てるかの計画作成を、他自治体に先駆けて取り組むことが必要だと思うが。

高橋議員
△
28年3月に、町長は子どもの町政参加について「今後機会をとらえて子ども達からの提案を町政に反映させる事を考えたい。」
更に当時行つた未来予想図の住民セミナーを念頭に、「そういう場に小中学生まで対象を広げて出席してもらつて意見を述べてもらう」と答弁した。



問 総合計画に子ども達の声を 答 中学生に意見を聞く

うことが現実的である」「子どもたちの意見が町政に反映されるよう機会作りに努める」と答弁した。
一・その後1年半の間、子どもたちの声をどのように聞いてどう対処してきたのか。

総合計画の策定時に、親と子どものアンケートをとり、結果を基に各課で実施している事業の参考として取り組んでいる。

食育計画の策定時に、小中学生からのアンケートを実施して計画に反映した。また先般のホテル渓谷バス導入のデザインにも意見を取り入れてきている。

総合計画については、将来を考えた計画という観点から中学生に町の良い所、必要な所等の声を各学年数名を選出していただき学校に出向いて聞くこととして、2回予定している。

高橋議員
△
28年3月に、町長は子どもの町政参加について「今後機会をとらえて子ども達からの提案を町政に反映させる事を考えたい。」
更に当時行つた未来予想図の住民セミナーを念頭に、「そういう場に小中学生まで対象を広げて出席してもらつて意見を述べてもらう」と答弁した。

子ども達の声は、子ども育て支援事業計画策定時に、親と子どものアンケートをとり、結果を基に各課で実施している事業の参考として取り組んでいる。

子ども達の声は、学校、社会教育で、どのような取り組みをすべきか、どういう子どもに育てるかということを考えているのでそのことを踏まえて取り組む。

子ども達の声は、学校、社会教育で、どのような取り組みをすべきか、どういう子どもに育てるかということを考えているのでそのことを踏まえて取り組む。

子ども達の声は、学校、社会教育で、どのような取り組みをすべきか、どういう子どもに育てるかということを考えているのでそのことを踏まえて取り組む。

高橋議員
△
28年3月に、町長は子どもの町政参加について「今後機会をとらえて子ども達からの提案を町政に反映させる事を考えたい。」
更に当時行つた未来予想図の住民セミナーを念頭に、「そういう場に小中学生まで対象を広げて出席してもらつて意見を述べてもらう」と答弁した。

うことが現実的である」「子どもたちの意見が町政に反映されるよう機会作りに努める」と答弁した。
一・その後1年半の間、子どもたちの声をどのように聞いてどう対処してきたのか。

総合計画の住民セミナーにも、10年後は地域を支える子どもの姿はなかつた。なぜ声を聞かないのか。

二・教育課程とは別に町として子どもたちを段階的にどう育てるかの計画作成を、他自治体に先駆けて取り組むことが必要だと思うが。

高橋議員
△
28年3月に、町長は子どもの町政参加について「今後機会をとらえて子ども達からの提案を町政に反映させる事を考えたい。」
更に当時行つた未来予想図の住民セミナーを念頭に、「そういう場に小中学生まで対象を広げて出席してもらつて意見を述べてもらう」と答弁した。

子ども達の声は、学校、社会教育で、どのような取り組みをすべきか、どういう子どもに育てるかということを考えているのでそのことを踏まえて取り組む。